USA's primary source for projector lamps

myprojectorlamps

プロジェクター所有者の取扱説明書

BenQ

W100

このプロジェクターの交換用ランプが必要ですか？

www.mplamps.co.jp

メーカーオリジナル取扱説明書。MyProjectorLamps.comの厚意として、修正せずに提供しています。
すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。

mplamps.co.jp
プロジェクターランプ業界最大級のオンラインショップ

プロジェクターランプの交換時ですか？

お使いのBenQ W100の交換用ランプは、現在入手可能です。



BenQ W100プロジェクターランプ

部品番号：5J.J1S01.001 / CS.5JJ1B.1B1
モジュール付きのオリジナルランプ（取付準備完了）
180日間保証

21,930円から

コードをスキャンするかアクセスする

www.mplamps.co.jp/projector-lamps/Benq/W100.html

表示価格は、このページが作成された時の価格です。現在の価格はサイトをご確認ください。

BenQ

W100 デジタル プロジェクタ
家庭用エンターテイメントシリーズ
取扱説明書

目次

安全のための注意、規則、法規について 3
安全上のご注意 3
規定と法規 6
はじめに 7
プロジェクタの特長 7
パッケージ内容 8
プロジェクタ外観ビュー 9
制御装置および機能 10
設置 12
場所の選択 12
プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 13
スクリーンサイズの調整 13
接続 17
ビデオ機器との接続 17
操作 23
起動 23
入力信号の切り替え 23
投写イメージの調整 24
高地での操作 26
プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ 26
画像の最適化 27
プロジェクタの終了 30
メニューの操作 30
メンテナンス 37
プロジェクタのお手入れ 37
ランプについて 38
トラブルシューティング 43
仕様 44
プロジェクタの仕様 44
外形寸法 44
タイミングチャート 45
保証 46
限定保証 46
注意 47
著作権 47
免責 47

1 安全のための注意、規則、法規について

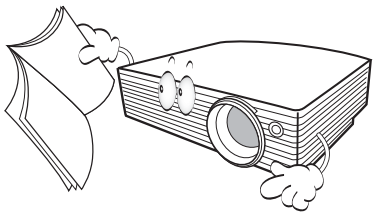
高性能 BenQ ビデオプロジェクタをお買い上げいただきありがとうございます ! 本製品はホームシアターもお楽しみいただけるよう設計されています。最高の結果をお楽しみいただくために、コントロールメニューや操作方法については本書をよくお読みください。

安全上のご注意

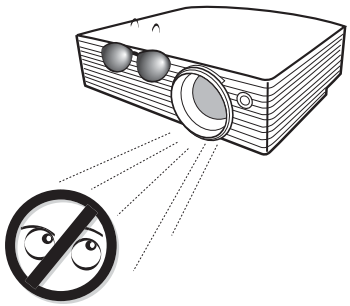
お使いの BenQ プロジェクタは、情報テクノロジ機器の最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全上のご注意

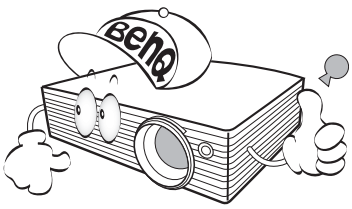
1. **プロジェクタを操作する前に、このユーザーズ ガイドをお読みください。**本書は必要なときにいつでも参照できるように、安全な場所に保管しておいてください。



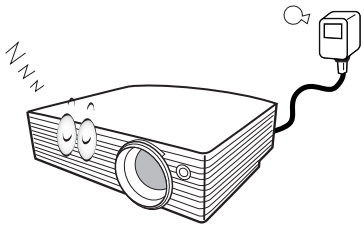
2. **動作中は、プロジェクタのレンズを覗き込まないでください。**光線が強力なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。



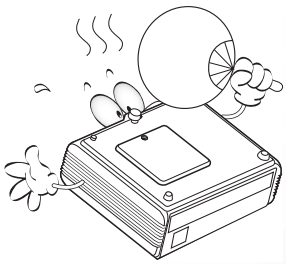
3. 点検修理については、認定技術者にお問い合わせください。



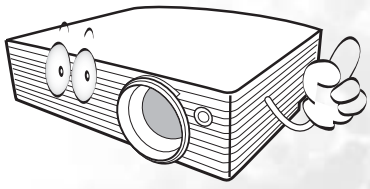
4. **電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、必要に応じて電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置（UPS）にプロジェクタを接続することをお薦めします。**



5. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクタの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクタを常温に戻してください。

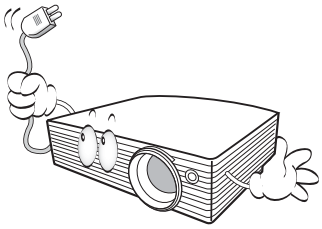


6. **プロジェクタのランプをオンにする前には、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。**



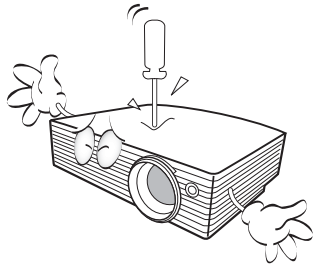
安全上のご注意（続き）

7. ランプの交換はプロジェクタが完全に冷却され、電源プラグを抜いてから行ってください。

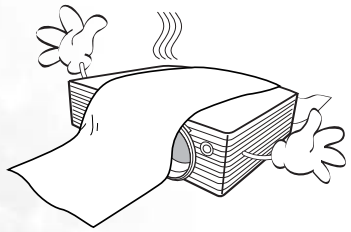


8. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。ユーザご自身で補修できるパーツは、専用カバーが付いたランプの交換だけです。

   いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。補修については、指定された専門の技術者にお尋ねください。

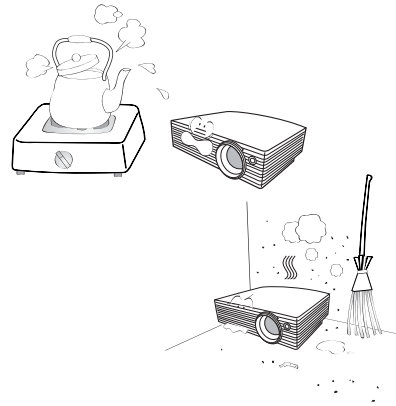


9. プロジェクタ動作中に通気孔をふさがないでください（スタンバイモードでも同様）：
   - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
   - 本装置をブランケットなどの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
   - プロジェクタの近くに可燃物を置かないでください。

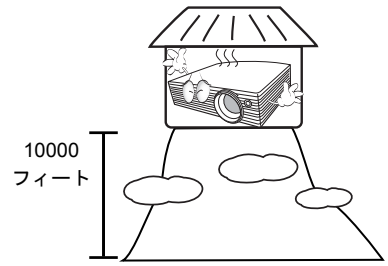


   通気孔がふさがれると、装置の内部が過熱し、火災が発生することがあります。

10. 次の場所に装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50cm 以上空けて、プロジェクタの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクタの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



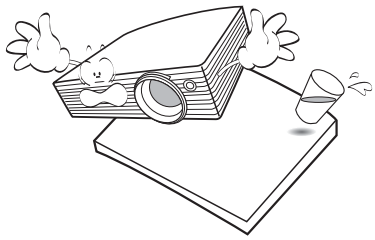
    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 40°C / 104°F を超える場所。
    - 高度が海抜 3050 メートル / 10000 フィートを超える場所。



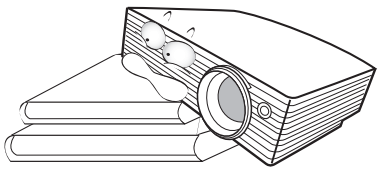
11. プロジェクタが稼動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。

安全上のご注意（続き）

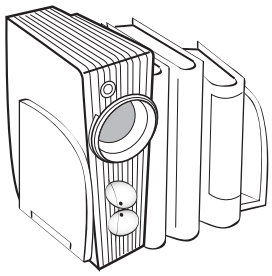
12. 使用時は、必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、重大な損傷を受ける恐れがあります。



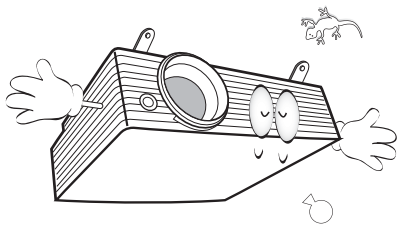
    - 左右の傾きが 10°、または前後の傾きが 15°を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態で装置を使用すると、ランプが故障したり損傷することがあります。



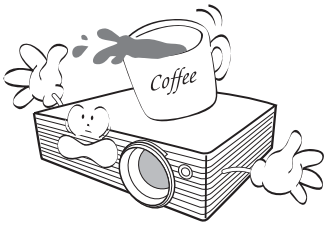
13. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにすると、装置が倒れけがをしたり、装置が破損したりする恐れがあります。



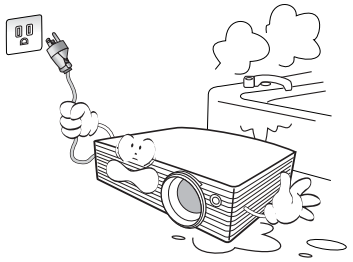
14. 本製品を天井に取り付けて、イメージを反転投写することができます。BenQ の天井取り付けキットを使用してください。



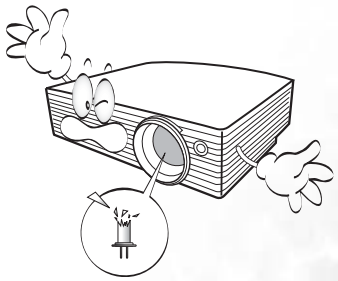
15. 装置の上に乗ったり、物を置かないでください。装置が物理的に損傷するだけでなく、事故やけがの原因になります。



16. プロジェクタが作動しているときに投射レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。
17. プロジェクタの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクタに液体が入った場合は、保証は適用されません。プロジェクタを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクタを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクタの点検をご依頼ください。



18. ランプは定格寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。



結露
寒い場所から暑い場所へプロジェクタを移動させた後は、すぐには装置を操作しないでください。このように温度が急激に変化した状態では、重要な内部部品が結露する場合があります。プロジェクタの故障の原因となりますので、このような状態では最低でも 2 時間以上経過してから装置を使用してください。

揮発性液体は使用しないでください
殺虫剤やある種のクリーナーなどの揮発性液体を装置の近くで使用しないでください。ゴムやプラスチック製品などを長時間装置に触れたままの状態で放置しないでください。装置に痕が残ってしまいます。お手入れの際は、安全のための注意にしたがってください。

処理
本装置には人体や環境に有害な素材が使用されています。
- リード （はんだに使用されています）
- 水銀 （ランプに使用されています）

本装置や使用済みランプの正しく処分方法については、地元の環境保護窓口にお問い合わせください。

規定と法規

FCC 規則

B クラス: 本デバイスはラジオ周波エネルギーを発生、使用し、さらに放射する可能性があり、指示にしたがってインストールおよび使用しなければ、ラジオ通信に有害な障害を与える場合があります。しかしながら、特定の方法で設置すれば障害を発生しないという保証は何もありません。このデバイスがラジオや TV 受信装置に有害な障害を与える場合は（デバイスの電源を一度切って入れなおすことにより確認できます）、障害を取り除くために次の方法にしたがってください。

— 受信アンテナの方向を変えるか、設置場所を変える
— このデバイスと受信装置の距離をあける
— このデバイスの受信装置とは別のコンセントに接続する
— ディーラーか経験のあるラジオ /TV 技術者に問い合わせる

EEC 規則

本装置は、EMC （Electronic Magnetic Compatibility：電磁的両立性）に関する ECC 指令 89/336/EEC に適合することが試験の結果確認されています。

MIC 規則

B クラス装置 （家庭用情報 / 電気通信装置）
本装置は家庭用として EMC 登録を受けているため、本製品は住居地域を含む任意の地域で使用できます。

WEEE 指令

ヨーロッパ共同体における家庭からの電子および電気製品の廃棄について。
本製品または梱包材料に記載されているこの記号は、これを家庭廃棄物として破棄することができないことを意味しています。電子または電気装置の再利用規定に基づいて処理してください。本装置の再利用についての詳しい情報は、お住まい地域の市役所、本製品を購入された店、または家庭廃棄物処理機関にお問い合わせください。素材の再利用は自然環境の保護に役立つと共に、人類の健康や環境を確実に保護する方法で再利用されます。



2 はじめに

プロジェクタの特長

本製品には高性能な光学投射エンジンが搭載されており、ご家庭でも簡単にお使いいただけるよう設計されています。

- 携帯性に優れたコンパクト設計
- 高品質の手動ズームレンズ
- 1670 万色の表示能力
- 言語を選択できるオンスクリーンメニュー
- 10 種類のアプリケーションモード
- 7 つのセグメントを持つカラーホイール
- 省電力モードで 25dB ノイズレベル
- ネイティブ縦横比 16:9
- 2 個のコンポーネントビデオ ソケットにより 2 台目のコンポーネントビデオ装置を接続したままにしておくことが可能なためケーブルを交換せずに簡単に装置を切り替え
- HDCP 機能付き DVI コネクタによりデジタル品質を実現

☞ • **投写イメージの明るさは、周辺光の状態および選択した入力ソースのコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投射距離の影響を直接受けます。**

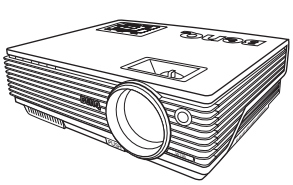
• **ランプの明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度はランプ製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。**

パッケージ内容

プロジェクタには、PC とビデオ装置への接続に必要なケーブルが同梱されています。丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準アクセサリ

☞ **同梱のアクセサリ類は日本仕様のものであり、本書の図とは異なる場合があります。**



プロジェクタ



携帯用ソフトケース



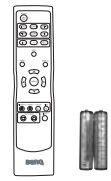
ユーザーズ ガイド



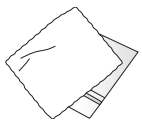
クイックスタートガイド



ユーザーズガイド CD



リモコン（電池付き）



クリーニング用布



オーディオケーブル



コンポーネント ビデオケーブル



電源コード



S ビデオケーブル

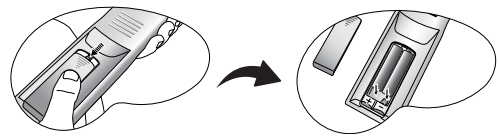


ビデオケーブル

別売りアクセサリ

1. スペアランプキット
2. 天井取り付けキット
3. DVI ケーブル
4. コンポーネントビデオー VGA（D-sub）アダプタケーブル

リモートコントロールとバッテリー



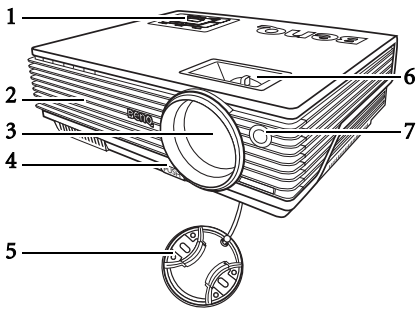
1. バッテリーカバーを開くには、リモコンを裏返してカバーのグリップを押し、図に示す方向にスライドさせてください。するとカバーが外れます。
2. 挿入されている電池を外し（必要な場合）、単 2 電池 2 個を極性に注意しながら挿入してください。プラス極（+）はプラスに、マイナス極（−）はマイナスの方向に挿入してください。
3. 再びカバーを元に戻してください。カチッという音がしたらカバーが閉まったことを意味しています。

☞ **バッテリーについてのご注意**

- 古いバッテリーと新しいバッテリーを混ぜて使用したり、異なるタイプのバッテリーを混ぜて使用したりしないでください。
- リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。
- また、使用済みの電池はメーカーの指示および地域の環境規定にしたがって処分してください。
- リモコンを長期間使用しないときには、漏電によりリモコンのコントロール部分が破損しないように電池は外しておいてください。

プロジェクタ外観ビュー

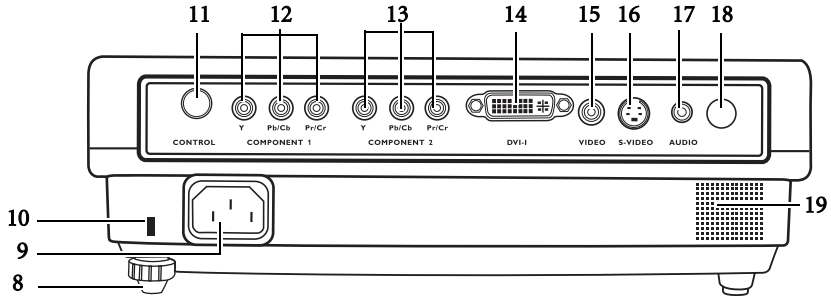
前面 / 上面



1. 外部コントロールパネル
   （詳細は 10 ページの " プロジェクタ " を参照してください。）
2. 通気孔
3. 投写レンズ
4. 前面アジャスタボタン
5. レンズキャップ
6. ピント リングおよびズーム リング
7. 前面赤外線リモートセンサ

背面

各種機器への接続については、17 ページの " 接続 " を参照してください。



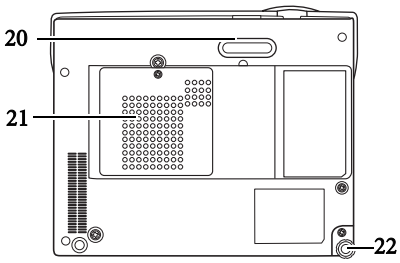
8. 背面アジャスタ フット
9. AC 電源コード差し込み口
10. 盗難防止用ケンジントンロック スロット
11. RS232 コントロールポート
12. コンポーネント 1

    YPbPr または YCbCr ビデオ信号に対応
13. コンポーネント 2

    YPbPr または YcbCr ビデオ信号に対応
14. DVI-I ソケット

    DVI-D ビデオ信号および DVI-A PC 信号に対応
15. ビデオソケット
16. S ビデオソケット
17. オーディオソケット
18. 赤外線リモートセンサー
19. スピーカ

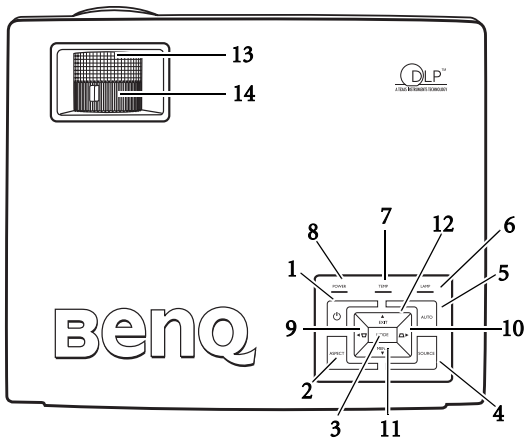
低い方



20. 前面アジャスタ フット
21. ランプカバー
22. 背面アジャスタ フット

制御装置および機能

プロジェクタ



1. POWER（電源）（詳細は 23 ページの "起動" と 30 ページの "プロジェクタの終了" を参照してください）

   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。スタンバイモードになっているときには、このボタンを 1 回押すとプロジェクタがオンになります。

   プロジェクタがオンになっているときには、このボタンを 2 回押すとスタンバイモードになります。

2. ASPECT（縦横比）（詳細は、27 ページの "1. 縦横比の選択" を参照してください。

   入力信号に合わせてイメージの縦横比を選択します。

3. MODE（モード）（詳細は、32 ページの "アプリケーションモード" を参照してください）

   選択した入力信号によって、数種類の画像設定オプションがあります。

4. SOURCE（ソース）（詳細は、23 ページの "入力信号の切り替え" を参照してください）

   入力信号をビデオ、S ビデオ、DVI-A、DVI-D、コンポーネントビデオ 1、またはコンポーネントビデオ 2 の順番で切り替えます。

5. AUTO（自動）（詳細は、24 ページの "イメージの自動調整" を参照してください）

   表示画像に最適なピクチャタイミングを自動的に決定します。この機能はコンピュータが接続されていなければ使用できません。

6. LAMP（ランプ）インジケータライト（詳細は、41 ページの "インジケータ" を参照してください）

   ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生した場合に点灯または点滅します。

7. TEMP（温度警告ライト）（詳細は、41 ページの "インジケータ" を参照してください）

   プロジェクタの温度が異常に高くなると赤く点滅します。

8. POWER（電源）インジケータライト（詳細は、41 ページの "インジケータ" を参照してください）

   プロジェクタ動作中に点灯または点滅します。

9. KEYSTONE（キーストーン）▽ / ◄ 左

10. KEYSTONE（キーストーン）△ / ► 右（詳細は、25 ページの "キーストーンの補正" を参照してください）

    スクリーンメニューを表示していない場合、#9 および #10 は KEYSTONE（キーストーン）補正ホットキーとして機能します。

11. ▼ MENU（メニュー）（詳細は、30 ページの "メニューの使用方法" を参照してください）

    オン スクリーン ディスプレイのコントロール メニューをオンにします。

12. ▲ EXIT（終了）

    終了し、メニューの設定を保存します。

    オンスクリーンメニューが有効な場合、#9 から #12 のボタンを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。

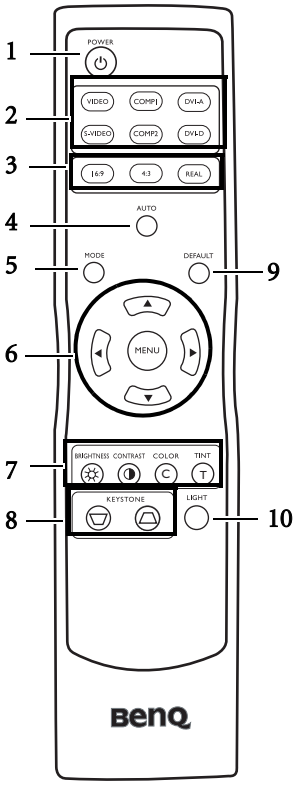
13. ピントリング（詳細は、24 ページの "画像サイズと明瞭さの微調整" を参照してください）

    投写イメージの焦点を調整します。

14. ズームリング（詳細は、24 ページの "画像サイズと明瞭さの微調整" を参照してください）

    画像のサイズを調整します。

リモートコントロール



1. POWER （電源）（詳細は 23 ページの " 起動 " と 30 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください）

   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。

   スタンバイモードになっているときには、このボタンを 1 回押すとプロジェクタがオンになります。プロジェクタがオンになっているときには、このボタンを 2 回押すとスタンバイモードになります。

2. Source（ソース）（詳細は、23 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください）

   プロジェクタに表示する入力信号を選択します。

3. Aspect （縦横比）（詳細は、27 ページの "1. 縦横比の選択 " を参照してください）

   入力信号に合わせてイメージの縦横比を選択します。

4. AUTO（自動）（詳細は、24 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください）

   表示画像に最適なピクチャタイミングを自動的に決定します。この機能はコンピュータが接続されていなければ使用できません。

5. MODE （モード）（詳細は、28 ページの "2. アプリケーションモードの選択 " を参照してください）

   選択した入力信号によって、数種類の画像設定オプションがあります。

6. MENU（メニュー）と方向ボタン（▲/◄/▼/►）（詳細は、30 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください）

   オンスクリーン メニューが有効になっていないときには、◄ と ► は、**キーストーン**補正のホットキーとして機能します。

   MENU (**メニュー**) または ▼ を押すと、オンスクリーン メニューがオンになります。

   任意のメニューアイテムを選択したり、調整を行ったりするには、矢印ボタンを押します。

   メニューを終了して、設定を保存するには、再び MENU (**メニュー**) を押すか、▲ を押します。

7. **画像品質調整ボタン（詳細は、28 ページの "3. その他の調整 " を参照してください）**
8. KEYSTONE（キーストーン）（詳細は、25 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください）

   ▽ を押すとイメージの上部分を縮小します。△ を押すとイメージの下部分を縮小します。
9. DEFAULT （デフォルト）

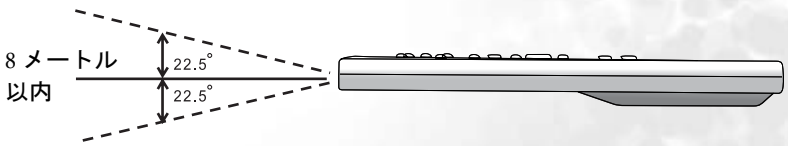
   すべての設定を工場出荷時の値に戻します。
10. LIGHT （ライト）

    リモコンのバックライトを約 10 秒間オンにします。バックライトがオンになっているときに他のボタンを押すと、バックライトがさらに 10 秒間オンになります。再び LIGHT （ライト）ボタンを押すとバックライトがオフになります。

リモコン操作

リモコンとプロジェクタの間に赤外線を遮断する障害物がないかどうかを確認します。リモコンはプロジェクタから 8 メートル以内、45 度以内の角度で赤外線光線が当たるように操作してください。

赤外線光線はスクリーンにも反射しますが、常にプロジェクタに向けて当てるようにしてください。



3 設置

場所の選択

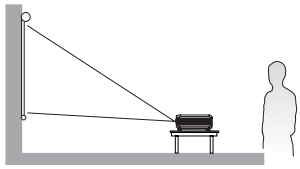
本機は次の 4 とおりの設置状態で使うことができます。

1. 前方フロア
2. 前方天井
3. 床面背面
4. 後方天井

部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクタとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

1. 床面前面

プロジェクタをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

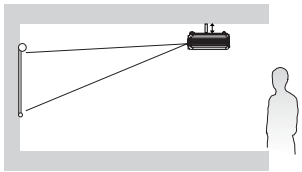


2. 天井前面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、BenQ プロジェクタ天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクタをオンにしたら、**詳細設定** > **ミラー**を選択し、 を設定してください。



3. 床面背面

プロジェクタをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面スクリーン投写が必要です。

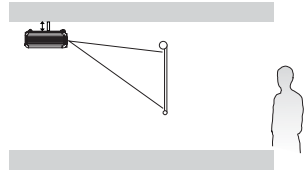
プロジェクタをオンにしたら、**詳細設定** > **ミラー**を選択して を設定してください。

4. 天井背面

プロジェクタを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

専用な背面投写スクリーンと BenQ プロジェクタ天井取り付けキットが必要です。

プロジェクタをオンにしたら、**詳細設定** > **ミラー**を選択して を設定してください。



プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意

BenQ プロジェクタを安心してお使いいただくために、ここに記載する注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

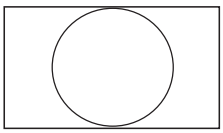
BenQ プロジェクタ以外の天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクタが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットは、BenQ プロジェクタを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途ケンジントンロックをお求めになり、プロジェクタのケンジントンロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクタを補助的に支えることができます。

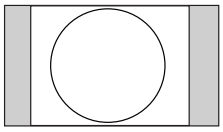
スクリーンサイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変化します。

このプロジェクタの最高（ネイティブ）解像度は 854 x 480 ピクセルであり、縦横の比率が 16：9 です。縦横比 4:3 の画像ソースは投射画像の水平方向の中央に表示され、図に示す通り円柱形のように表示されます（投射画像のどちらかの辺に黒い縦線が現れます）



縦横比 16：9 の表示エリアに投射した
縦横比 16：9 の画像



縦横比 4：3 の表示エリアに投射した
縦横比 16：9 の画像

プロジェクタは必ず机の上などに水平に配置し、スクリーンの水平方向の中央に対して直角になるように設置してください。このように設置することによって、角度を付けて投射（または角度が付いた面に投射する場合）すると生じる画像の歪みを防止することができます。

新しいデジタルプロジェクタはまっすぐに画像を投射しません（例：古いリール・トゥ・リール式のフィルムのプロジェクタ）。代わりに、デジタルプロジェクタはプロジェクタの水平面に対し、やや上向きに角度を付けて投射します。これは机の上に配置したとき、スクリーンの下端が机のレベルよりも上になるよう（また室内の全員がスクリーンをはっきりと見えるように）にするためです。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、プロジェクタがやや下向きに角度を付けて投射するように上下逆さまに取り付ける必要があります。詳細は、" プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 " を参照してください。

15 の図をご覧になるとお分かりいただけるように、このタイプの投射方法では投射画像の下端がプロジェクタの水平面から縦に傾いてしまいます。天井に取り付けた場合は、投射画像の上端がこのようになります。

プロジェクタをスクリーンから遠ざけると、投射画像のサイズが拡大され、それに伴い縦のオフセットも広がります。

スクリーンとプロジェクタの距離を決定する際は、投射距離に直接比例する投射画像のサイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

15 と 16 に 16:9 と 4:3 の両サイズ用の表を用意しましたので、プロジェクタを設置する場所を決定する際参照してください。設置場所を決定するときには、スクリーン中央に対し直角の水平距離

（投射距離）と、スクリーンの上下端からのプロジェクタの縦オフセットの高さ（オフセット）の 2 つのサイズを考慮してください。

使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定する

1. スクリーンの縦横比が 16:9 か 4:3 のどちらであるか決定します。16:9 スクリーンの場合は、15 ページの "16:9 スクリーンを使用する場合の設置 " を参照してください。4:3 スクリーンの場合は、16 ページの "4:3 スクリーンを使用する場合の設置 " を参照してください。
2. スクリーンサイズを選択します。
3. 表を参考にして、左側の「スクリーンサイズ」という欄から使用したいスクリーンサイズに最も近いものを探してください。この値の列を右に見ていくと、「平均」という欄に相当するスクリーンからの平均距離が記載されています。これが投射距離になります。
4. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、スクリーンの端からの最終的な縦オフセット位置が決定されます。
5. プロジェクタはスクリーンの水平方向の中心に対して直角に、ステップ 3 で決定したスクリーンからの距離に、さらにステップ 4 で決定したオフセット値で設置するよう推奨します。

たとえば、120 インチのスクリーンで縦横比 16:9 で表示する場合は、平均の投射距離は 4,829 mm、縦オフセットは 244 mm となります。

プロジェクタを別の場所に移動させると（推奨される範囲内で）、スクリーンの中央に画像が表示されるようにプロジェクタを上下に傾ける必要があります。そうすると、画像に歪みが生じる場合があります。この場合は、キーストーン機能を使用して歪みを補正します。キーストーンの補正については、25 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する

これは、プロジェクタを設置する部屋に合ったスクリーンサイズを求めるための方法です。

最大スクリーンサイズは、使用する部屋の実際のスペースが上限となります。

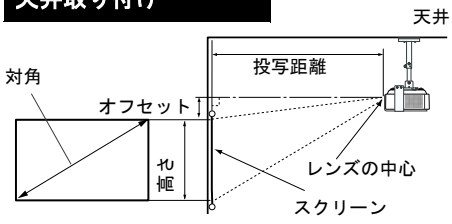
1. スクリーンの縦横比が 16:9 か 4:3 のどちらであるか決定します。16:9 スクリーンの場合は、15 ページの "16:9 スクリーンを使用する場合の設置 " を参照してください。4:3 スクリーンの場合は、16 ページの "4:3 スクリーンを使用する場合の設置 " を参照してください。
2. プロジェクタとスクリーンを設置したい場所までの距離を測ってください。これが投射距離になります。
3. 表を参考にして、「平均」という欄からスクリーンからの平均距離に最も近い値を探してください。測定した距離が最小距離と最大距離（平均距離値の両側に表示されています）の間にあることを確認してください。
4. この値と同じ列を左へ見ていくと、相当するスクリーンサイズを見つけることができます。これが投射距離からの投射画像サイズになります。
5. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、プロジェクタの水平面を基にした最終的なスクリーン設置場所が決定されます。

たとえば、縦横比 4:3 で、測定した投射距離が 4.8m（4,800mm）であったとき、「平均」欄の最も近い値は 4,851mm になります。同じ列を見ると、2,500mm（2.5m）が必要なスクリーンであることが分かります。大型サイズのスクリーンしか使用できない場合は、2.5m スクリーンの両側にリストされているスクリーンサイズは 8' と 9' になっています。

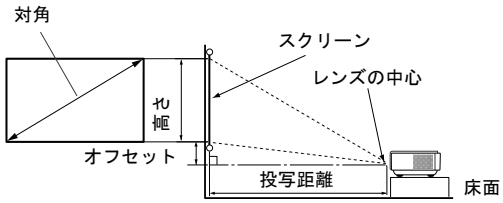
これらのスクリーンサイズの最小および最大投射距離を確認してみると、測定した 4.8m の投射距離が 2.5m 、8 インチスクリーンに適合することを示しています。このプロジェクタは同じ投射距離で、スクリーンサイズを変えて表示するように調整することもできます（ズームコントロールを使用します。）スクリーンサイズが変わると、縦オフセットの値も変わりますので注意してください。

16:9 スクリーンを使用する場合の設置

天井取り付け



床取り付け



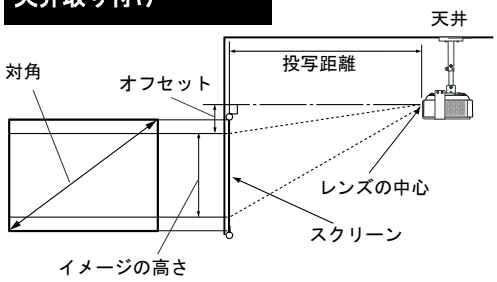
16:9 スクリーン対角			スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット（mm）
フィート	インチ	mm	最短距離（最大ズームにて）	平均	最長距離（最小ズームにて）	
4	48	1219	1800	1931	2063	97
		1500	2215	2376	2538	120
5	60	1524	2250	2414	2578	122
6	72	1829	2700	2897	3094	146
		2000	2953	3168	3384	160
7	84	2134	3150	3380	3610	171
8	96	2438	3600	3863	4125	195
		2500	3691	3960	4230	200
9	108	2743	4050	4346	4641	219
		3000	4430	4753	5076	240
10	120	3048	4500	4829	5157	244
		3500	5168	5545	5921	280
12	144	3658	5401	5794	6188	292
		4000	5906	6337	6767	320
15	180	4572	6751	7243	7735	365
		5000	7383	7921	8459	400
18	216	5486	8101	8692	9282	438
		6000	8476	9094	9712	459
25	300	7620	11251	12072	12892	609

☞ **これらの数値は実際の値とは若干の誤差があるかもしれません。**

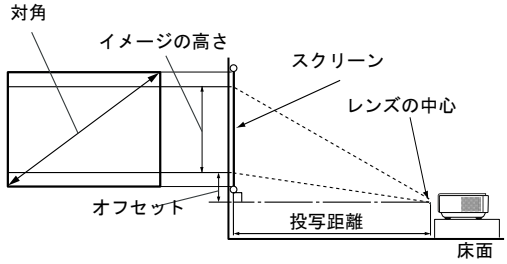
4:3 スクリーンを使用する場合の設置

下の図と表は、縦横比 4:3 のスクリーンに 16:9 の画像を表示する場合に参照してください。

天井取り付け



床取り付け



4:3 スクリーン対角			スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット（mm）
フィート	インチ	mm	最短距離（最大ズームにて）	平均	最長距離（最小ズームにて）	
4	48	1219	2205	2366	2526	119
		1500	2713	2910	3108	147
5	60	1524	2756	2957	3158	149
6	72	1829	3307	3548	3790	179
		2000	3617	3881	4144	196
7	84	2134	3858	4140	4421	209
8	96	2438	4410	4731	5053	239
		2500	4521	4851	5180	245
9	108	2743	4961	5323	5684	268
		3000	5425	5821	6217	294
10	120	3048	5512	5914	6316	298
		3500	6330	6791	7253	343
12	144	3658	6615	7097	7579	358
		4000	7234	7761	8289	392
15	180	4572	8268	8871	9474	447
		5000	9042	9702	10361	489
18	216	5486	9922	10645	11369	537
		6000	10381	11138	11895	562
25	300	7620	13780	14785	15790	746

☞ **これらの数値は実際の値とは若干の誤差があるかもしれません。**

4 接続

プロジェクタは VCR、DVD プレーヤー、デジタルチューナー、ケーブルボックスまたは衛星デコーダー、ビデオゲームコンソール、デジタルカメラなど、あらゆる種類のビデオ装置と接続できます。またデスクトップ PC やラップトップ PC、アップルマッキントッシュ機との接続も可能です。

別のケーブルを使用すると、プロジェクタと複数のビデオ装置を同時に接続することができます。必要な操作は、プロジェクタが表示するための正しい入力を選択することだけです。

信号ソースをプロジェクタに接続する際には、次の点に注意してください。

1. 接続を行う前にすべての機器の電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

☞ **次の接続図に示すケーブル類がすべてプロジェクタに同梱されているとは限りません（詳細は、8 ページの " パッケージ内容 " を参照してください）。ほとんどのケーブルは電気店でお買い求めいただけます。**

ビデオ機器との接続

本プロジェクタは次の出力ソケットのいずれかを備えたビデオ機器と接続することができます。

- （DVI）
- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ（コンポジット）

上記のいずれかの方法でプロジェクタとビデオソース装置を接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクタとビデオソース装置の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高のビデオ品質

ソース装置に DVI ソケットが搭載されていれば、DVI 接続方法を使用することが最も理想的です。使用できる DVI コネクタの種類によって、デジタル品質または高品質なアナログビデオ品質をお楽しみいただくことができます。

プロジェクタを DVI ソースに接続する方法と、その他の説明については、19 ページの "DVI ソース装置の接続 " を参照してください。

DVI ソースを使用できない場合は、装置をコンポーネントビデオケーブル（コンポジットビデオではありません）でプロジェクタに接続する方法が理想的です。デジタル TV チューナーや DVD プレーヤーはコンポーネントビデオを出力しますので、S ビデオや（コンポジット）ビデオには使用できるならばこの方法で接続してください。

プロジェクタとコンポーネントビデオ装置の接続方法については、20 ページの " コンポーネントビデオ装置の接続 " を参照してください。

良好なビデオ品質

S ビデオは標準のコンポジットビデオよりも品質が良いアナログビデオを再現します。ビデオソース装置にコンポジットビデオと S ビデオの両出力端末が付いている場合は、S ビデオを選択してください。

プロジェクタと S ビデオ装置の接続方法については、21 ページの "S ビデオ装置の接続 " を参照してください。

標準ビデオ品質

コンポジットビデオはアナログビデオであり、見るだけなら十分です。ただしプロジェクタから投射される結果は最適値以下であり、ここで記載した方法の中では最も品質が低い方法です。

プロジェクタとコンポジットビデオ装置の接続方法については、22 ページの " コンポジットビデオ装置の接続 " を参照してください。

オーディオ接続

このプロジェクタには基本的なオーディオ機能に対応できる、モノラルスピーカーが搭載されています。ステレオオーディオ入力は、プロジェクタのスピーカーを介して一般的なモノラルオーディオ出力にミキシングされます。

別にサウンドシステムを使用できる場合は、ビデオソース装置のオーディオ出力とサウンドシステムを接続するとよいでしょう。

次のセクションで示すオーディオ接続図は参照としてのみ記載しています。別のサウンドシステムを使用できる場合、またはオーディオが必要でない場合は、プロジェクタにオーディオを接続する必要はありません。

DVI ソース装置の接続

このプロジェクタには DVD プレーヤーなどの DVI ソース装置、または PC などの VGA 出力装置に接続するための DVI-I 入力ソケットがついています。

DVI コネクタには 3 種類あります。DVI-A、DVI-D、DVI-I です。DVI-I ソケットは、DVI-A と DVI-D の両フォーマットに対応する統合されたコネクタです。

DVI-A フォーマットは DVI 信号をアナログ（VGA）ディスプレイに表示（またはその逆）するときに使用します。信号変換の段階で信号品質が若干劣化しますが、標準の VGA 接続よりも高い品質の画像を表示することができます。

DVI-D フォーマットはデジタル信号を変換せずにデジタルディスプレイに表示するときに使用します。デジタルフォーマットの特長により、純粋なデジタル接続を行うとアナログ接続の場合よりも画質が良くなります。

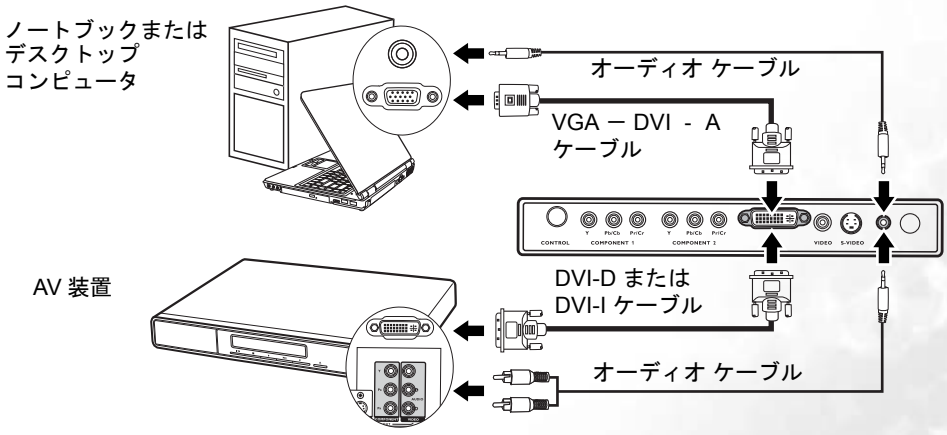
DVI-A と DVI-D フォーマットは互換性がありません。したがって DVI-A フォーマットのコネクタを DVI-D 装置に接続することはできません。ケーブルを購入される前にフォーマットを確認してください。あるいは、あらゆる種類の DVI 接続で役に立つ DVI-I ケーブルを購入することもできます。

ソース装置に未使用の DVI または VGA（D-Sub）出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを DVI ソース装置かコンピュータに接続するには（DVI ケーブルか VGA ー DVI-A ケーブルを使用）

• DVI （DVI-I または DVI-D）ケーブルを使用した場合	• VGA-DVI - A ケーブルを使用した場合
1. ケーブルを DVI ソース装置の DVI 出力ソケットに差し込んでください。 2. ケーブルのもう片端をプロジェクタの DVI-I 信号入力ソケットに差し込んでください。	1. VGA-DVI - A ケーブルの VGA 側をコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA-DVI - A ケーブルの DVI 側をプロジェクタの DVI-I 信号入力ソケットに接続します。
3. プロジェクタの（ミックスモノラル）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの AUDIO ソケットに接続してください。 接続が完了したら、オーディオはプロジェクタの音量設定とミュート設定を使って調整することができます。詳細は " ミュート " と 34 ページの " 音量 " を参照してください。	



☞ **多くのノートブックでは、プロジェクタを接続すると外付けビデオポートはオンになりません。通常 FN + F3 や CRT/LCD キーなどを使用すると、外部表示のオン / オフを切り替えることができます。CRT/LCD 機能キーまたは、ノートブック上でモニタ記号が示された機能キーの場所を確認します。FN と記号が記された機能キーを同時に押します。ノートブックのキーの組み合わせについては、ノートブックの説明書をお読みください。**

コンポーネントビデオ装置の接続

このプロジェクタには 2 セットのコンポーネントビデオ ソケットがあります。これらを使って、同時に 2 台のコンポーネントビデオ装置を接続することができます。ビデオソース装置に未使用のコンポーネントビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

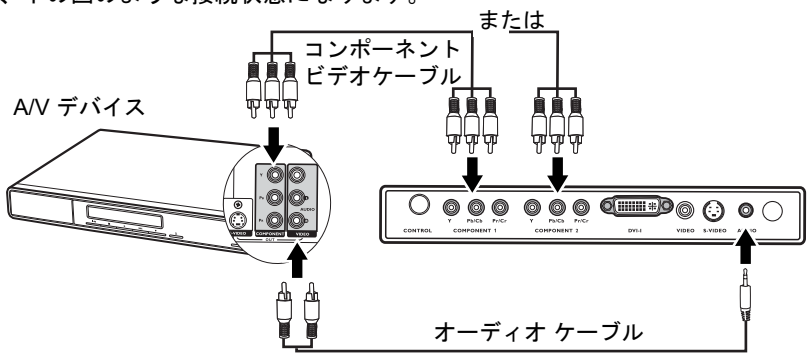
- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポ - ネントビデオ装置に接続するには

1. コンポーネントビデオ ケーブルの 3 個の RCA タイプコネクタが付いた方をビデオソース装置のコンポーネントビデオ出力ソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
2. もう片端をプロジェクタの YPb(Cb)Pr(Cr) ソケットに接続します。この場合もプラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。
3. プロジェクタの（ミックスモノラル）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの AUDIO ソケットに接続してください。

   接続が完了したら、オーディオはプロジェクタの音量設定とミュート設定を使って調整することができます。詳細は " ミュート " と 34 ページの " 音量 " を参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



プロジェクタを高精度 TV（HDTV）チューナーに接続する場合は、次の規格がサポートされています。

- 480i
- 576i
- 720p (50/ 60 Hz)
- 480p
- 576p
- 1080i (50/ 60 Hz)

☞ • **このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノラルオーディオしか再生できません。18 ページの " オーディオ接続 " を参照してください。**

• **電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**

S ビデオ装置の接続

ビデオソース装置に未使用の S ビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

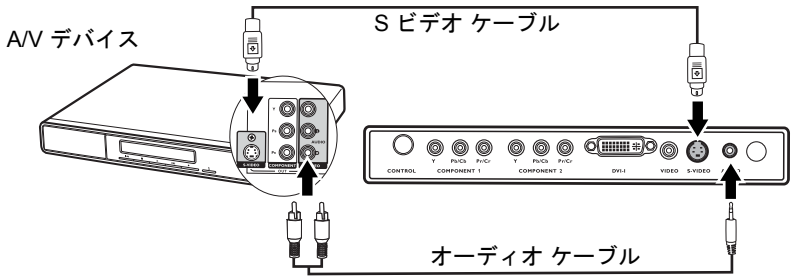
- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを S ビデオ装置に接続するには：

1. S ビデオケーブル（オプションアクセサリ）をビデオソース装置の S ビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. S ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタの S ビデオソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタの（ミックスモノラル）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの AUDIO ソケットに接続してください。

   接続が完了したら、オーディオはプロジェクタの音量設定とミュート設定を使って調整することができます。詳細は " ミュート " と 34 ページの " 音量 " を参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- **このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノラルオーディオしか再生できません。詳細は、18 ページの " オーディオ接続 " を参照してください。**
- **電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**
- **コンポーネントビデオ接続方式によりプロジェクタとこの S ビデオソース装置をすでに接続してある場合は、S ビデオ接続方式でこの装置を接続すると不要に 2 つめの接続が生じ、画質が悪くなるため、この装置を接続する必要はありません。詳細は、17 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。**

コンポジットビデオ装置の接続

ビデオソース装置に未使用のコンポジットビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

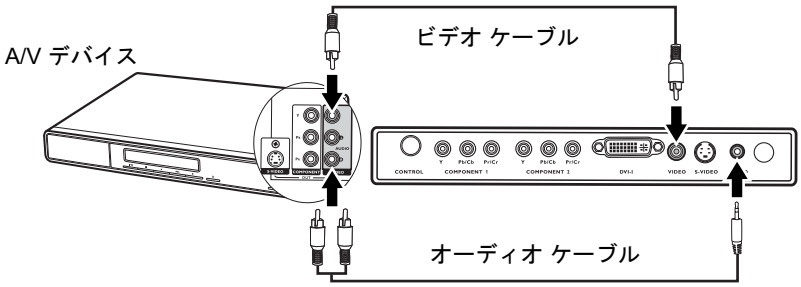
- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポジットビデオ装置に接続するには：

1. ビデオケーブル（オプションアクセサリ）をビデオソース装置のビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタのビデオソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタの（ミックスモノラル）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをビデオ装置のオーディオ出力ソケットとプロジェクタの AUDIO ソケットに接続してください。

   接続が完了したら、オーディオはプロジェクタの音量設定とミュート設定を使って調整することができます。詳細は " ミュート " と 34 ページの " 音量 " を参照してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。

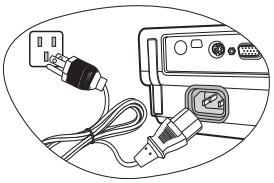


- **このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノラルオーディオしか再生できません。詳細は、18 ページの " オーディオ接続 " を参照してください。**
- **電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されず、正しいビデオソースが選択されている場合、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。**
- **コンポーネントビデオ入力と S ビデオ入力を使用できない場合に限り、コンポジットビデオ接続方式で接続してください。詳細は、17 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。**

5 操作

起動

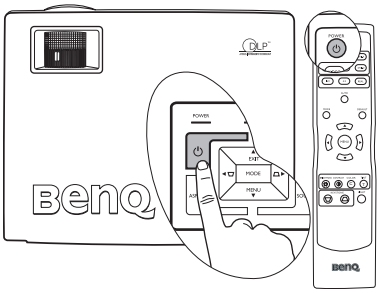
1. 電源コードをプロジェクタとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。電源を入れると、**POWER（電源インジケータ）**がオレンジ色になります。
2. レンズ キャップを取り外します。キャップを付けたままにしておくと、過熱によりキャップが変形する場合があります。



3. リモコンまたはプロジェクタの ⏻ **POWER（電源）**ボタンを 2 秒間押し続けて装置を起動します。**POWER（電源）インジケータ ライト**が緑色に点滅し、電源がオンになると、緑色のまま点灯します。

   起動処理には、⏻ **POWER（電源）**を押してから約 30 秒かかります。起動処理の後半に、デフォルトの BenQ ロゴが表示されます。

   必要であれば、ピントリングを使って画像の鮮明さを調整してください。



☞ **プロジェクタが前回使用したときから完全に冷め切っていない場合は、約 90 秒間冷却ファンが作動します。**

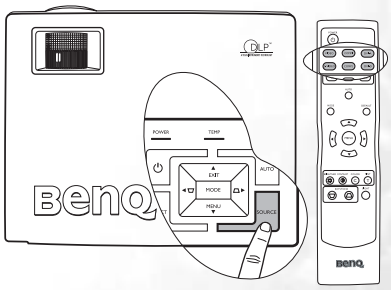
4. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
5. プロジェクタは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力ソースがスクリーン中央に表示されます。プロジェクタが有効な信号を検出しない場合は、入力ソース信号が検出されるまで検索中のメッセージが表示されます。

   プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE（ソース）**を押して表示する入力信号を選択することもできます。詳細は、23 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。

☞ **入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクタの動作範囲を超えた場合、「Out of Range」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。プロジェクタの解像度に合った入力信号に変えるか、入力信号を低い値に設定してください。45 ページの " タイミングチャート " を参照してください。**

入力信号の切り替え

プロジェクタは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は 1 台です。個々の入力信号を選択するには、リモコンの SOURCE （ソース）ボタン （Video、S-Video、DVI-A、DVI-D、コンポーネントビデオ 1、または ポーネントビデオ 2）のいずれかを押すか、プロジェクタの **SOURCE （ソース）**ボタンを押して選択してください。選択したソース名は、スクリーンの中央にボタンを押してから 3 秒間表示されます。



入力信号を変えると、そのたびに投射画像の輝度も変わります。通常ほとんどが静止画を使ったデータ（グラフィック）PC プレゼンテーションは、ほとんどが動画（ムービー）のビデオよりも明るくなります。入力タイプによって、アプリケーションモードで有効なオプションが変わります。詳細は、28 ページの "2. アプリケーションモードの選択 " を参照してください。

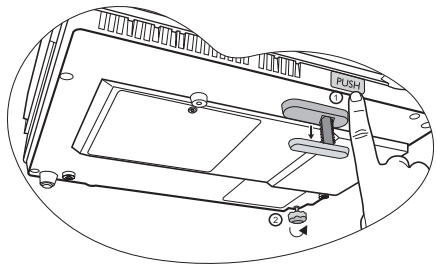
投写イメージの調整

投写角度の調整

プロジェクタには、前面アジャスタ フットが 1 つ、背面アジャスタ フットが 1 つ備え付けられています。これらのアジャスタを使って、イメージの高さと投写角度を調整します。

プロジェクタを調整するには、次の手順にしたがってください。

1. フロント アジャスタボタンを押して、プロジェクタの手前を持ち上げます。画像が正しく表示されたら、フロント アジャスタボタンを放してフットを固定します。



☞ **ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。**

アジャスタボタンは熱風が出る排気孔の近くにありますので、このボタンを押すときには注意してください。

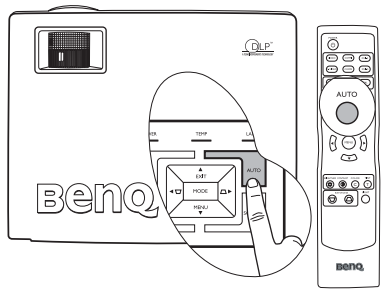
2. 背面アジャスタ フットを回して、水平角度を微調整します。

フットを縮めるには、フロントアジャスタ ボタンを押しながらプロジェクタを持ち上げて、ゆっくりとプロジェクタを下ろします。背面アジャスタフットを逆方向に回します。

スクリーンとプロジェクタが垂直になっていなければ、投影画像は縦に歪みます。これを補正するには、プロジェクタのコントロール パネルまたはリモコンの画像メニューでキーストーンの値を調整します。

イメージの自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。手動で最適化するには、プロジェクタのコントロール パネルまたはリモコンの AUTO（**自動**）を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3 秒以内に最適な画質が得られます。



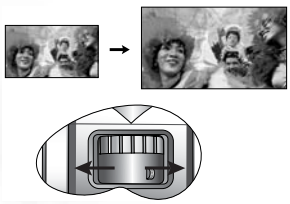
下図のように、現在のソース情報がスクリーンの右下隅に 3 秒間表示されます。

☞ **この機能はコンピュータが接続されていなければ使用できません。**

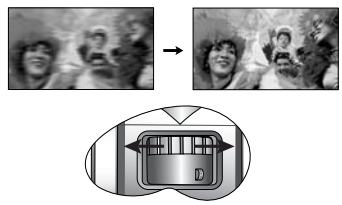
[AUTO]（自動）が機能している間、スクリーンは消画の状態になります。

画像サイズと明瞭さの微調整

1. 投写されたイメージのサイズを調整するには、ズームリングを使用します。

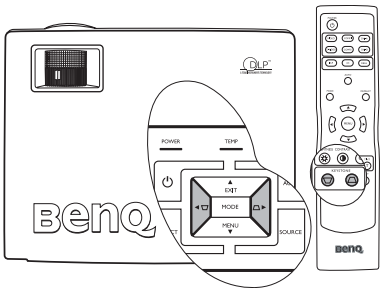


2. 次にピントリングを回して焦点を合わせます。



キーストーンの補正

キーストーンとは、投写イメージの上部または下部が大きく広がってしまう状態のことです。プロジェクタがスクリーンに対して垂直でない場合に発生します。



これを補正するには、プロジェクタの投射角度の調整とは別に、次のいずれかの手順に従い、手動で補正する必要があります。

- プロジェクタの◀ / ▽ または △ /▶ を押して、「キーストーン」と表示されたステータスバーを表示します。イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、◀ / ▽ を押します。イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、△ /▶ を押します。
- リモコンの ▽ または △ を押して、「キーストーン」と表示されたステータスバーを表示してから、イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、▽ を押し、イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、△ を押します。
- プロジェクタの▼ MENU （メニュー）またはリモコンの MENU （メニュー）キーを押します。プロジェクタで◀ / ▽ / △ /▶ を押すか、リモコンで◀ **左** / ▶ **右** を押して  **画像** > **キーストーン** を選択し、値を調整します。

以下に例を示します。



Keystone 0

- **プロジェクタの◀ / ▽ を押すか、または**
- **リモコンの ▽ を押すか、または**
- **Picture（画像）--> KEYSTONE（キーストーン）メニューが表示されている場合は、プロジェクタの◀ / ▽ を押すか、リモコンの◀ 左を押します。**



Keystone -6



Keystone 0

- **プロジェクタの △ /▶ を押すか、または**
- **リモコンの △ を押すか、または**
- **Picture（画像）--> KEYSTONE（キーストーン）メニューが表示されている場合は、プロジェクタの △ /▶ を押すか、リモコンの▶ 右 を押します。**

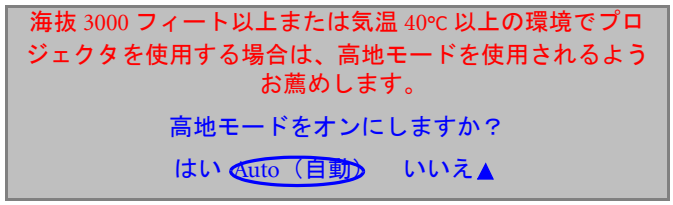


Keystone +6

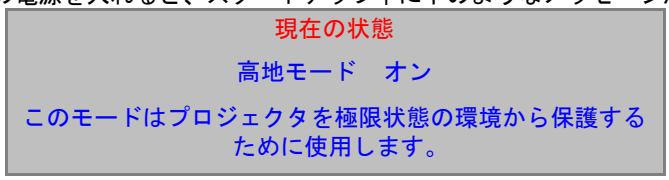
高地での操作

海抜 3000 フィート以上、気温 40°C 以上の環境、またはプロジェクタをシャットダウンせずに連続して長時間 （10 時間以上）使用する場合は、このモードを選択されるようお薦めします。

高地モードを有効にするには、プロジェクタかリモコンで **◄ 左** / **► 右** を押して**オン**を選択してください。確認のメッセージが表示されます。**AUTO （自動）**を押してください。



次回プロジェクタの電源を入れると、スタートアップ中に下のようなメッセージが表示されます。



高地モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。

上記の場合を除き、その他の極限環境でプロジェクタを使用すると、プロジェクタが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクタを過熱から保護するために設置された機能です。このような場合は、高地モードに切り替えてみてください。これは、このプロジェクタが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

プロジェクタのメニューディスプレイのカスタマイズ

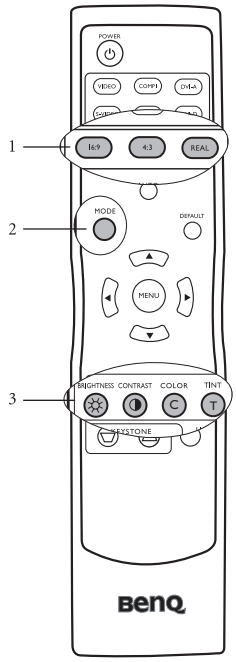
オンスクリーン ディスプレイメニューは操作環境に応じて設定することができます。次の設定は投射設定、操作、性能には影響しません。

- **設定** メニューの [OSD 時間] では、ボタンを押してからの OSD の表示時間を設定します。5 ～ 100 秒の範囲で設定できます。
- **詳細設定**メニューの [言語] では、オンスクリーンメニューの言語を選択します。プロジェクタかリモコンの **◄ 左** / **► 右** を使って、言語を選択してください。
- **詳細設定**メニューの [スプラッシュスクリーン] では、スタートアップ時に表示するロゴを設定することができます。

画像の最適化

画像を最適化するには、プロジェクタかリモコンのボタンか、オンスクリーンメニューをお使いください。オンスクリーンメニューの操作方法については、30 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

次の操作は任意で行うことができます。必ずしもすべての手順に従う必要はありません。画質の状態によって調整を行ってください。



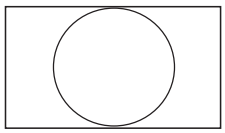
1. 縦横比の選択

「縦横比」とは、イメージの幅と高さの比率のことです。デジタル TV は通常 16:9（プロジェクタのデフォルト値）であり、ほとんどのアナログ TV は 4:3 です。

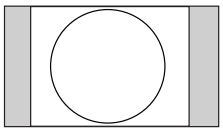
投射画像の縦横比を変更するには（ソースの縦横比に関係なく）、リモコンの Aspect （縦横比）ボタンを押すか、プロジェクタの **ASPECT（縦横比）**ボタンを押すか、あるいは  **Pro-Picture（高画質画像）** > **Aspect Ratio（縦横比）**メニューで行います。信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。3 種類の縦横比の中から選択できます。

☞ **下の図ではグレーの部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。**

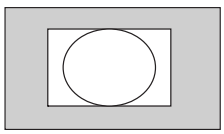
1. 16:9 （デフォルト）: スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっている画像に適しています。



2. 4:3: スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため標準の TV や 4:3 DVD ムービーなど縦横比が 4:3 になっている画像に適しています。



3. REAL （リアル）: スクリーンの中央に表示されているイメージのスケールを変更せずに、入力信号で 1 対 1 マッピングが行われます。



2. アプリケーションモードの選択

このプロジェクタは操作環境や入力ソースの画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのアプリケーションモードが設定されています。必要に応じて操作モードを選択するには、MODE（モード）を押してください。信号タイプごとに使用できる画像モードは次の通りです。

PC/DVI-A 信号入力

1. **最大輝度 モード**：イメージの輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクタを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **プレゼンテーション モード（デフォルト）**：プレゼンテーションに向いています。このモードでは PC の色に合わせて輝度が強調されます。
3. **フォト モード**：リビングルームでデジタル画像を見るのに最適なモードです。
4. **ゲーム モード**：明るいリビング ルームでコンピュータゲームをする場合に適しています。
5. **ビデオ モード**：このモードはやや暗めの部屋で、PC 入力を介してデジタルカメラや DV からムービーやビデオクリップを再生するのに適しています。

DVI-D/YPbPr/S ビデオ / ビデオ信号入力

1. **ホームシアター モード（デフォルト）**：シネマモードよりも若干明るく、低い照明がある室内での使用に適しています。
2. **シネマ モード**：彩度とコントラストは最適なバランスが得られますが、明度は低くなります。この設定は、全くの暗室 （例：映画館）でムービーを楽しむのに適しています。
3. **ゲーム モード**：明るいリビングルームなどでビデオゲームをするのに適しています。
4. **フォト モード**：リビングルームでデジタル画像を見るのに最適なモードです。
5. **ファミリールーム**：このモードでは輝度が強調されるため、通常の照明がある室内での使用に適しています。TV 番組を見たり、ゲームをしたり、画像が明るいムービーを見たりするのに適しています。

3. その他の調整

次の調整は、リモコンか OSD システムから行うことができます。

- リモコンを使用する場合は、必要な機能のボタンを押してください。
- OSD システムを使用する場合は、**MENU（メニュー）**ボタンを押して  **Picture（画像）**メニューに入ります。**▲上**または**▼下**を押して必要な機能をハイライトします。

1. 輝度の調整

値を調整するには、リモコンかプロジェクタの**◀左** / **▶右**を押します。

値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。

投射画像の中央が端よりもやや明るくなっていることを気付かれるでしょう。これはプロジェクタが投射画像の輝度を均等に処理しないために、表示されている画像の明るさが一定しなくなる正常な現象です。



2. コントラストの調整

値を調整するには、リモコンかプロジェクタの◀ **左** / ▶ **右**を押します。

値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて輝度を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。



3. 色の調整

この機能は特定の入力ソースを使用する場合にのみ有効となります。

値を調整するには、リモコンかプロジェクタの◀ **左** / ▶ **右**を押します。

値を高くするほど色がより鮮明で明るくなります。イメージの色強度を増減します。

4. 色合いの調整

この機能は特定の入力ソースを使用する場合にのみ有効となります。

値を調整するには、リモコンかプロジェクタの◀ **左** / ▶ **右**を押します。

値を高くするほど緑がかったイメージになります。逆に値を低くするほど赤みがかったイメージになります。イメージの色調を調整します。

5. 色温度の選択

この機能は OSD システムからしか設定できません。

任意の色温度を選択するには、リモコンかプロジェクタの◀ **左** / ▶ **右** を押します。

４ 種類の色温度 * 設定が使用できます。

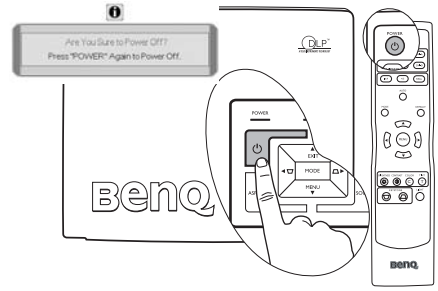
1. **T1:** 最高の色温度のとき、T1 は他の設定よりも画像をより青白く再現します。
2. **T2:** 画像を青みがかった白で表示します。
3. **T3:** 白の色合いを通常に保ちます。
4. **T4:** 画像を赤みがかった白で表示します。

*** 色温度について：**

用途に応じて「白」とみなされる色合いが多数存在します。白色を表すためによく使用される方法の 1 つに「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白で表示されます。色温度の高い白色は青みがかって表示されます。

プロジェクタの終了

1. ⏻ POWER（電源）を押すと、警告メッセージが表示されます。⏻ POWER（電源）をもう一度押すと、プロジェクタの電源がオフになります。オフにしたくない場合は、メッセージが消えるまで数秒間お待ちください。
2. POWER（電源）インジケータライトがオレンジ色に点滅してランプが消灯した後、プロジェクタを冷却するためにファンが約 90 秒間動作を続けます。



- **ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクタはいかなるコマンドにも反応しません。**
- **冷却時間を短縮するには、クイック冷却機能を有効にすることもできます。34 ページの " クイック冷却 " を参照してください。**

3. 電源コードをコンセントから抜きます。

- **プロジェクタ終了手順が完了する前、または冷却プロセスの間は、電源コードを抜かないでください。**
- **プロジェクタを正しく終了しなければ、プロジェクタを再起動しようとするとランプを保護するため、数分間ファンが動作して冷却します。ファンが停止した後で、もう一度 ⏻ POWER（電源）ボタンを押してください。**

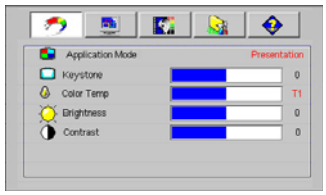
メニューの操作

メニューの使用方法

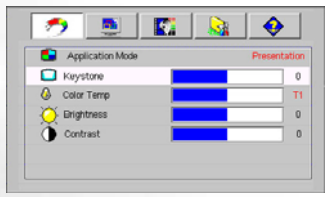
プロジェクタは多国語のオンスクリーンディスプレイ （OSD）メニューを備えており、各種調整や設定が行えます。メニューを切り替える前に、**詳細設定 > 言語**メニューで OSD 言語を設定することができます。メニュー言語は 17ヶ国語用意されています。35 ページの "4. 詳細設定メニュー " を参照してください。

次の例では、キーストーンの調整を説明しています。

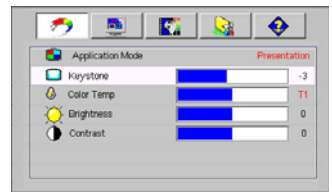
1. プロジェクタかリモコンの MENU（メニュー）ボタンを押すと、オンスクリーンメニューが表示されます。



2. プロジェクタかリモコンの ◀ **左** / ▶ **右**を使って、 Picture（画像）メニューを選択します。
3. プロジェクタかリモコンの▲ **上** / ▼ **下**を押して KEYSTONE（キーストーン）を選択します。



4. プロジェクタかリモコンの◀ **左** / ▶ **右** を押して、キーストーン値を調整してください。



5. プロジェクタの▲ **上**を繰り返し押すか、リモコンの MENU（メニュー）を押して設定を保存し、メニューを終了します。

メニュー システム

OSD メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

	受信信号のタイプにより使用可能な機能			
サブメニュー	PC/DVI-A	DVI-D	ビデオ /S ビデオ	コンポーネント ビデオ
 画像	アプリケーションモード キーストーン 色温度 輝度 コントラスト		アプリケーションモード キーストーン 色温度 輝度 コントラスト 色 色合い *	
 高画質画像	縦横比 水平位置 垂直位置 位相 水平サイズ	IRE 縦横比 オーバースキャン	IRE 縦横比 シャープネス	
 設定	ミュート 音量 OSD 時間 クイック冷却 リセット			
 詳細設定	ミラー ソース スキャン 言語 スプラッシュスクリーン 高地モード 自動電源オフ 省電力モード			
 情報	ソース 解像度 アプリケーションモード ランプ時間（補正済み）		ソース システム アプリケーション モード ランプ時間 （補正済み）	ソース 解像度 アプリケーション モード ランプ時間 （補正済み）

* ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能は NTSC 規格が選択されているときにしか使用することができません。

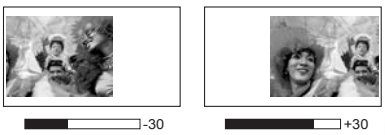
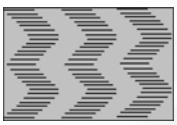
1. 画像メニュー

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

機能 （デフォルト / 設定値）	説明
アプリケーションモード （PC/DVI-A プレゼンテーション；YPbPr/S ビデオ / ビデオ / DVI-D：ホームシアター）	あらかじめ定義したモードを利用すると、ご使用のプログラムタイプに最適なプロジェクタのイメージを設定することができます。 リモコンの MODE（モード）ボタンを使ってあらかじめ定義したモードを選択することもできます。28 ページの "2. アプリケーションモードの選択 " を参照してください。
キーストーン （0）	イメージのキーストーンを補正します。25 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。
色温度 （選択したアプリケーションモードによって変わります）	色温度を設定します。29 ページの "5. 色温度の選択 " を参照してください。
輝度 （選択した入力ソースによって変わります）	イメージの輝度を調整します。28 ページの "1. 輝度の調整 " を参照してください。
コントラスト （選択した入力ソースによって変わります）	イメージの明るさと暗さの差を調整します。29 ページの "2. コントラストの調整 " を参照してください。
色 （選択した入力ソースによって変わります）	イメージの色強度を増減します。29 ページの "3. 色の調整 " を参照してください。
色合い （50）	イメージの色調を調整します。29 ページの "4. 色合いの調整 " を参照してください。 ☞ **ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能は NTSC 規格が選択されているときにしか使用することができません。**

2. 高画質画像メニュー

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

機能 （デフォルト / 設定値）	**説明**
IRE （0）	グレイスケールのビデオ信号は IRE ユニットで測定されます。NTSC TV 規格を使用するエリアでは、グレイスケールを 7.5 IRE (黒) から 100 IRE(白) で測定する場合がありますが、PAL 規格を使用するエリアや、日本の NTSC 規格を使用するエリアでは、グレイスケールは 0 IRE (黒) から 100 IRE (白) で測定します。入力ソースが 0 IRE または 7.5 IRE のどちらを使用するかを確認した上で、正しい選択を行ってください。
縦横比 （16:9）	縦横比の設定は 3 種類あります。27 ページの "1. 縦横比の選択 " を参照してください。 1. 16:9 （ワイドスクリーン） 2. リアル 3. 4 : 3 （標準のスクリーン） ☞ **縦横比 16 : 9 は正しい 16 : 9 信号が入力されているときに、コンポーネントビデオ入力を介してしか表示することができません。詳細は、20 ページの " コンポーネントビデオ装置の接続 " と 13 ページの " スクリーンサイズの調整 " を参照してください。**
水平位置 （0）	投写イメージの水平位置を調整します。 
垂直位置 （0）	投写イメージの垂直位置を調整します。 
位相 （選択した入力ソースによって変わります）	この機能を使用すると、クロック位相を調整して、イメージの歪みを減少させることができます。 
水平サイズ （0）	イメージの幅を調整します。
シャープネス （15）	イメージがシャープまたはソフトになるように調整します。
オーバースキャン (オフ)	この機能を**オン**にすると、画質が悪い四辺を隠します。この機能がオンになっているときには、幾何学的に正確に画像を全画面に表示しつつ、約 5% の画像が失われます。

3. 設定メニュー

機能 （デフォルト / 設定値）	説明
ミュート オフ	プロジェクタの音声をオン / オフに切り替えます。
音量 （5）	音量を調整します。
OSD 時間 （10）	ボタンを押してからの OSD の表示時間を設定します。5 ～ 100 秒の範囲で設定できます。
クイック冷却 オフ	クイック冷却機能を有効 / 無効にします。**オン**を選択するとこの機能が有効になり、プロジェクタの冷却時間が通常の 90 秒よりも短くなり 30 秒程度で冷却が終了します。
リセット	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ **次の設定は現在の設定値のまま維持されます。ミラー、言語、高地モード、位相、水平位置。**

4. 詳細設定メニュー

機能 （デフォルト / 設定値）	説明
ミラー （ ）	プロジェクタは、天井またはスクリーンの背後に設置したり、1 枚あるいは複数のミラーを使用して設置することができます。プロジェクタを天井に設置する場合は、販売店に連絡して、天井取り付け用ブラケット（別売りアクセサリ）をお求めください。詳細については、12 ページの " 場所の選択 " と 13 ページの " プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 " を参照してください。
ソース スキャン オン :	プロジェクタで自動的に入力信号を検索するかどうかを設定します。ソーススキャンが**オン**の場合、プロジェクタは信号を取得するまで入力信号をスキャンします。この機能が有効になっていない場合は、最後に使用した入力信号が選択されます。デフォルトは DVI-A です。
言語 （英語）	OSD コントロール メニューの言語を設定します。次の 17ヶ国語の中から選択してください。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、日本語、韓国語、スウェーデン語、オランダ語、トルコ語、チェコ語、ポルトガル語、タイ語、ポーランド語 プロジェクタかリモコンの **◄ 左** / **► 右**を使って任意の言語を選択してください。
スプラッシュスクリーン （BenQ ロゴ）	プロジェクタ起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。選択肢には以下の 3 つがあります。デフォルト（BenQ ロゴ）、黒画面、と青画面です。
高地モード （オフ）	高地や温度が高い場所で使用するときのモードです。26 ページの " 高地での操作 " を参照してください。
自動電源オフ （オフ）	指定した時間を経過しても入力信号が検出されないときに、自動的にプロジェクタの電源をオフにします。プロジェクタかリモコンの**◄ 左** / **► 右**を押して、プロジェクタの電源が切れるまでの時間を設定してください。**オフ**を選択すると、この機能は無効になります。
省電力モード （オフ）	システムのノイズを減らすためにはこのモードを使用します。消費電力が 20% 節減されます。このモードを有効にすると出力されるライトが低減され、その結果投射画像が暗くなります。 **プロジェクタを常に省電力モードで使用すると、ランプタイマーの自動シャットダウン機能が延長されます。ランプの使用時間を計算する方法については、38 ページの " ランプの使用時間の計算 " を参照してください。**

5. 情報メニュー

このメニューでは、プロジェクタの現在の操作状態を表示します。

☞ **項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。**

機能	説明
ソース	現在の信号ソースを表示します。
解像度	入力信号のネイティブ解像度を表示します。
アプリケーションモード	 Picture（画像）メニューで選択したモードを表示します。
ランプ時間（補正済み）	ランプの使用時間数を表示します。
システム	ビデオ入力システムの形式が NTSC、SECAM、PAL のいずれかを表示します。

6 メンテナンス

プロジェクタのお手入れ

ご使用のプロジェクタはほとんどメンテナンスの必要がありません。定期的に行う必要があるのは、レンズのクリーニングだけです。

ランプを除き、プロジェクタの部品は一切取り外さないでください。ランプ以外の交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面の汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

☞ **レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。**

プロジェクタケースのクリーニング

ケースのお手入れを行う前に、30 ページの " プロジェクタの終了 " に記載されている正しい手順でプロジェクタの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ケースの汚れやゴミを落とすには、付属のクリーニング布でやさしく拭いてください。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

☞ **ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。**

プロジェクタの保管

長期間プロジェクタを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクタの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、44 ページの " 仕様 " を参照されるか、販売店にお尋ねください。
- アジャスタフットを格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクタを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

プロジェクタの移動

プロジェクタを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。ご自分で運ぶ場合は、最初に本製品が梱包されていた材料か、添付の携帯用ソフトケースを使用してください。

ランプについて

ランプの使用時間の計算

プロジェクタが作動している間、プロジェクタに内蔵されたタイマーがランプの使用時間（時間単位）を自動的に計算します。ランプ時間の計算方法は次の通りです。

合計ランプ時間 = 3/4（省電力モードでの使用時間）+ 1（標準モードでの使用時間）

省電力モードについての詳細は、35 ページの " 省電力モード " を参照してください。

省電力モードでのランプ時間は標準モードの 3/4 として計算されます。つまりプロジェクタを省電力モードで使用すると、ランプ時間を 1/3 ほど延長することができます。

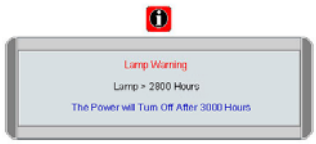
警告メッセージ

LAMP（ランプ）インジケータが赤に点灯した場合、またはランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいランプを取り付けるか、お買い上げの販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクタの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

プロジェクタの警告メッセージについての詳細は、41 ページの " インジケータ " を参照してください。

⚠ **ランプの温度が異常に高くなると、LAMP （ランプ）インジケータライトおよび温度警告ライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして 45 分間ほど放置し、プロジェクタを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときに「LAMP」（ランプ）インジケータまたは「TEMP」（温度）インジケータが点灯する場合は、販売店にご相談ください。**

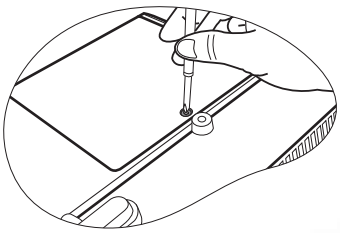
次のランプ警告が表示されたら、ランプを交換してください。

メッセージ	状態
	ランプの動作時間が 2800 時間を超えました。動作を最適化するために、新しいランプを取り付けてください。通常プロジェクタを省電力モードで起動している場合は（35 ページの " 省電力モード " を参照してください）、2950 時間のランプ警告メッセージが表示されるまでプロジェクタを使用することができます。
	ランプの動作時間が 2950 時間を超えました。新しいランプに交換しておくと、途中でランプが寿命で切れる不都合を避けられます。
	ランプの動作時間が 3000 時間を超えました。メッセージはスクリーン中央で約 30 秒間点滅し、同時に **LAMP （ランプ）インジケータ** が 40 秒間赤く点灯します。 この時点でランプを交換されるよう強くお薦めします。ランプは消費アイテムです。プロジェクタ内部のタイマーがランプの使用時間を計算し、情報を表示します。使用時間が長くなると、ランプは徐々に明るさを失います。これは正常な現象です。ランプが非常に暗くなったら、いつでもランプを交換してください。ランプの使用時間が 3000 時間を超えたらランプを交換してください。
	この警告メッセージが表示されると、プロジェクタは 40 秒以内にシャットダウンします。プロジェクタを正常に動作させるには、ランプを交換してください。

ランプの交換

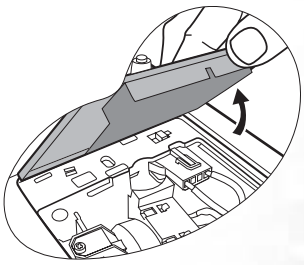
⚠
- **感電を防ぐため、ランプを交換する前には必ずプロジェクタの電源をオフにし、電源コードを抜いてください。**
- **重度のやけどを負う危険を防ぐため、ランプを交換する前に、最低でも 45 分間はプロジェクタを冷却してください。**
- **割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除く場合は、指をけがしたり、内部部品を破損したりしないように、十分注意してください。**
- **指のけがや、レンズに触れることによる画質の劣化を避けるため、ランプを取り外すときに空のランプケースには触れないでください。**
- **このランプの中には水銀が入っています。ランプの処分は、地元の有害廃棄物規制条例にしたがって、正しい方法で行ってください。**

1. 電源をオフにして、プロジェクタをコンセントから抜きます。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを約 45 分間放置して常温に戻してください。
2. 机の上にあるものを別の場所に移動させて、クッションとなる柔らかい素材を置きプロジェクタの表面を保護してください。
3. プロジェクタを上下に裏返します。ランプカバーのネジを緩めます。ネジはランプカバーを固定するのに必要ですので紛失しないようにしてください。磁気ヘッドのドライバを使用することを強くお勧めします。

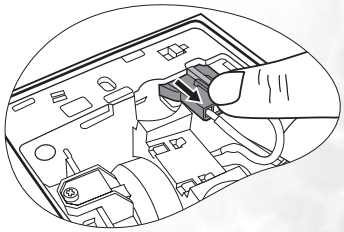


4. プロジェクタからランプカバーを外します。

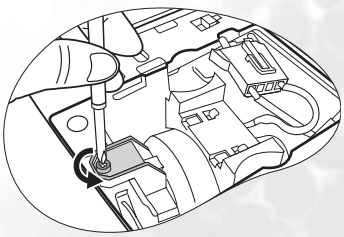
⚠ **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。**



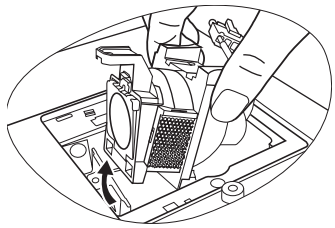
5. プロジェクタからランプコネクタを外します。



6. ランプを固定しているネジを緩めます。ネジはランプを固定するのに必要ですので紛失しないようにしてください。磁気ヘッドのドライバを使用することを強くお勧めします。

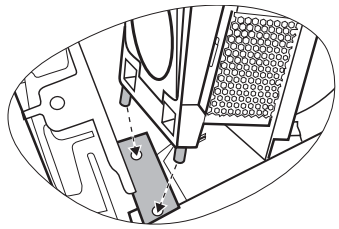


7. プロジェクタからランプを外します。

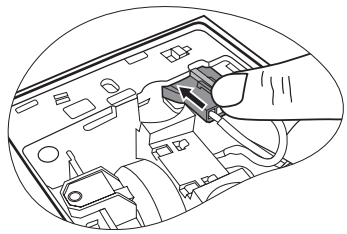


☞
- **急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクタ内に散乱します。**
- **取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手が届く場所、可燃物の付近には置かないでください。**
- **ランプを取り外した後は、プロジェクタ内に手を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、投写イメージの色が不均一になり歪む場合があります。**

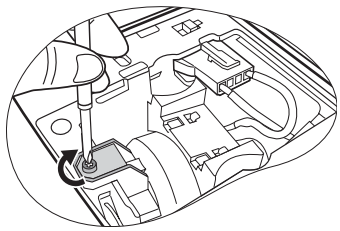
8. 図に示す通り、新しいランプを手に持ち、プロジェクタ上にランプを設置する穴とランプを合わせて、ランプをプロジェクタの中へ完全に挿入してください。



9. ランプコネクタをプロジェクタに接続します。

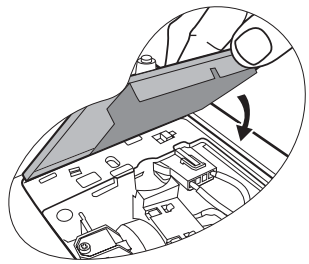


10. ランプを固定しているネジを締めます。

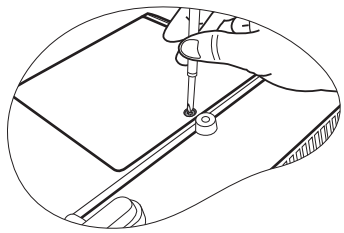


☞
- **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

11. プロジェクタにランプカバーを戻します。



12. ランプカバーを固定しているネジを締めます。

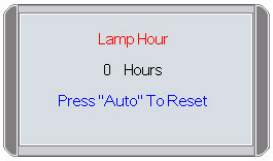


☞
- **ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。**
- **ネジを締め過ぎないでください。**

13. プロジェクタを再起動してください。

☞ **ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。**

14. ランプカウンタのリセット



☞ **ランプを交換していない場合はリセットしないでください。ランプが破損する恐れがあります。**

i. プロジェクタの▲ **EXIT（終了）**ボタンを 5 秒間押し、ランプの合計動作時間を表示します。
ii. プロジェクタまたはリモコンの **AUTO（自動）**を押し、ランプ時間を「0」にリセットします。
iii. OSD が消えるまで、5 秒ほどお待ちください。

温度情報

温度警告ライトが点灯している場合は、以下の問題が発生していることを示しています。

1. 内部温度が異常に高くなっています。
2. ファンが動作していません。

プロジェクタの電源をオフにし、認定サービス担当者にお問い合わせください。詳細は、" インジケータ " を参照してください。

インジケータ

意味

- Blank （ブランク）- : ライト消灯
- : ライト点滅
- : ライト点灯
- **O** : オレンジ色
- **R** : 赤色
- **G** : 緑色

Light （ライト）			状態と説明
電源	温度	ランプ	
電源の状況			
O	-	-	スタンバイ モードです。
G	-	-	起動中、**POWER （電源）インジケータ ライト**が点滅します。
G	-	-	プロジェクタは通常動作中です。
O	-	-	1. 通常の冷却プロセスを経過せずに異常終了したため、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 電源を切った後、プロジェクタは 90 秒間の冷却時間が必要です。
O	-	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。

Light （ライト）			状態と説明
電源	温度	ランプ	
ランプの状況			
O	-	R	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	-	R	1. プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 販売店にお問い合わせください。

温度の状況			
-	R	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	R	R	
-	R	G	
R	R	R	
G	R	R	
O	R	R	
-	G	R	

7 トラブルシューティング

? プロジェクタの電源がオンにならない

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードをプロジェクタの電源コードソケットとコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認します。
冷却プロセスの間にプロジェクタの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

? 画像が映らない

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクタが正しく入力ソース機器に接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	リモコンの SOURCE（ソース）ボタンを押すか、プロジェクタの **SOURCE（ソース）**ボタンを使って正しい入力信号を選択してください。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

? イメージがぼやける

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	ピントリングで焦点を合わせます。
プロジェクタとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクタの高さを調整します。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

? リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクタの間に障害物があります。	障害物を取り除きます。
プロジェクタからの距離が遠すぎます。	プロジェクタから 6 メートル（19.5 フィート）以内の場所に立ちます。

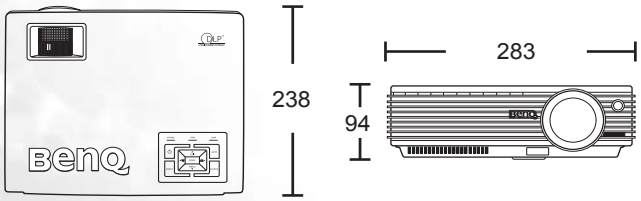
8 仕様

プロジェクタの仕様

☞ **仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。**

全般	
製品名	デジタル プロジェクタ
モデル名	W100
光学	
解像度	854 x 480　480P
表示システム	1-CHIP DMD
レンズ F/ 番号	F=2.6 ～ 2.77、f= 20.4 ～ 23.5 mm
ランプ	200W ランプ
電気仕様	
電源	AC100 ～ 240V、1.5A ～ 3.2A、50/60 Hz（自動）
消費電力	285W（最高）
機械仕様	
重量	6 lbs（2.724 Kg）
入力端子	
コンピュータ入力	
RGB 入力	DVI-I x 1（DVI-A 信号使用）
ビデオ信号入力	
S ビデオ	Mini DIN 4-pin ポート x 1
ビデオ（コンポジット）	RCA x 1
SD/HDTV 信号入力	アナログ – コンポーネント x 2 デジタル – DVI（HDTV のみ）
オーディオ信号入力	
オーディオ入力	ミニ ジャック ステレオ ポート
出力	
スピーカ	（ミックスモノラル）2W x 1
使用環境条件	
動作温度範囲	0ºC ～ 40ºC（海抜）
操作時の相対湿度	10% ～ 90%（結露なきこと）
動作高度	0 ～ 3000 フィート（0ºC ～ 40ºC） 3000 ～ 6000 フィート（0ºC ～ 30ºC） 6000 ～ 10000 フィート（0ºC ～ 23ºC）

外形寸法



単位：mm

タイミングチャート

PC 入力用にサポートされているタイミング

解像度	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	ピクセル周波数（MHz）	モード
640 x 400	31.47	70.089	25.176	640 x 400_70
640 x 480	31.469	59.940	25.175	VGA_60
	37.861	72.809	31.500	VGA_72
	37.500	75.000	31.500	VGA_75
	43.269	85.008	36.000	VGA_85
800 x 600	37.879	60.317	40.000	SVGA_60
	48.077	72.188	50.000	SVGA_72
	46.875	75.000	49.500	SVGA_75
	53.674	85.061	56.250	SVGA_85
1024 x 768	48.363	60.004	65.000	XGA_60
	56.476	70.069	75.000	XGA_70
	60.023	75.029	78.750	XGA_75
	68.667	84.997	94.500	XGA_85
1280 x 1024	63.981	60.020	108.000	SXGA_60

コンポーネント YPbPr 入力用にサポートされているタイミング

信号フォーマット	水平周波数 （kHz）	垂直周波数 （Hz）
480i(525i)@60Hz	15.73	59.94
480p(525p)@60Hz	31.47	59.94
576i(625i)@50Hz	15.63	50.00
576p(625p)@50Hz	31.25	50.00
720p(750p)@60Hz	45.00	60.00
720p(750p)@50Hz	37.50	50.00
1080i(1125i)@60Hz	33.75	60.00
1080i(1125i)@50Hz	28.13	50.00

ビデオおよび S ビデオ入力用にサポートされているタイミング

ビデオモード	水平周波数（kHz）	垂直周波数（Hz）	カラー副搬送波周波数（MHz）
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

保証

限定保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。

保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換（工賃を含む）に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。

重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0ºC から 40ºC の間、高度 10000 フィート以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ support.BenQ.com をご覧ください。

⑩ 注意

著作権

Copyright 2006 by BenQ Corporation. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BenQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

免責

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。また、BenQ Corporation は、お客様に改訂または修正の通知を行う義務を負うことなく、本書を改訂したり、本書の内容を随時修正する権利を有します。

*DLP 、Digital Micromirror Device 、および DMD は、Texas Instruments の商標です。その他の著作権は各社または各組織に帰属します。